番組を視聴する会

震災を伝える･記録する･考える
～福島へ それぞれの思い～

時刻	3月11日（土曜日）の上映番組
10:30～10:54	**ウィークリーニュースONZE　アーサー・ビナード日本人探訪　今の日本を福島のレンズで切り取る作家　福島県　赤城修司**（2016.3.13/日本BS放送/24分）【210292】 日本語で文学を作るアメリカ生まれの詩人、アーサー･ビナードが、日本の伝統的な暮らしや文化を引き継いで今の日本と向き合おうとする人物を訪ねる。「ウィークリーニュースONZE」の特集コーナー。◆福島市在住の高等学校美術教員･赤城さんは、2011年３月12日からこれまでの５年間に、30万枚以上の写真を撮影してきた。福島市は、事故を起こした原子炉からおよそ60キロ。避難指示は出ていない。市内全域で除染作業が今も続く。除去された汚染土は、人々の生活空間で保管されている。この現実を踏まえ、赤城さんは自分のまちを記録し、発信し続けている。
11:10～11:59	**ＦＢＣスペシャル2016　福と福と復　～震災避難５年目の決断～**（2016.5.26/福井放送/49分）【211453】 避難先･福井で福島の復興を願いながら生活する避難者を追ったドキュメンタリー。◆川崎葉子さんは、初対面の人とも福島弁ですぐに打ち解け仲良くなる。震災後、原発から３キロの自宅から一家４人で知人を頼って福井県に避難してきた。そこで待ち受けていたのは、乏しい情報と支援の少なさ。「こんなときだからこそ、力を合わせよう」と川崎さんは「FFF（フフフ）の会」を作り、避難者の交流と結束を呼びかけてきた。一方、復興が全く進まず変わり果てた故郷の姿を眺めるうちに「福島に戻って何か恩返しを」と考え始め、５年を節目に、故郷に戻る決断をした。
12:15～12:42	**故郷はどこに　原発事故から７年　こどもたちの今**（2018.8.19/福島中央テレビ/27分）【213401】 東日本大震災と原発事故で避難した住民の中には、幼い子どももいた。７年後、避難指示は大部分で解除され、学校も再開し始めているが、ほとんどの子どもたちが避難先での学校生活を続けていた。避難先が新たな故郷になりつつある中、生まれ育った故郷とのつながりを探し続ける子どもたちの姿を伝える。◆浪江町は全町避難を余儀なくされた。当時６歳だった少女は中学生になったが、避難先の中学校に通っている。故郷の記憶は少しずつ薄れ、少女と故郷をつなぐものは伝統芸能「請戸の田植踊」だけとなっていた。そして３月、少女は事故後初めて故郷を訪れる。
13:00～13:47	**踊るふるさと　請戸の安波祭**（2019.5.13/テレビユー福島/47分）【214474】 原発事故後ふるさとに戻ることが出来ず、県内外で避難生活を続ける人たちが、祭りを通してふるさとの伝統を守ろうと奮闘する姿を追ったドキュメンタリー。◆江戸時代から伝わる、福島県浪江町請戸(うけど)地区の「安波祭(あんばまつり)」。東日本大震災による津波で、請戸地区は95人が犠牲となるなど大きな被害が出た。そして原発事故のため、原発から約６キロの浪江町は全町民に避難指示が出された。請戸地区の住民も散り散りになったが、請戸の人たちの心のよりどころだった「安波祭」は住民の避難先で続けられ、18年にようやく元の場所で開催された。
14:00～14:25	**ＮＮＮドキュメント'19　アリの叫び　～原発事故避難者たちの選択～**（2019.9.23/山形放送/25分）【214948】 東日本大震災に伴う原発事故から８年。山形県内には今も約1，800人の避難者がいる。こうした中、米沢市の雇用促進住宅に避難している８世帯に対し住宅からの立ち退きを求める訴訟が起こされた。2017年３月、国と福島県が住宅の無償提供を打ち切ったことがきっかけだ。８世帯の避難者たちはなぜ、被告となってまで避難生活を続けるのか。一方、福島県に戻った避難者家族もいる。福島での１年が家族にもたらした変化とは。米沢市で避難を続ける８世帯を中心に、原発事故に翻弄される避難者たちの姿を取材した。（20年３月、和解が成立した）
14:40～15:06	**テレメンタリー2021　変わる古里　－フクシマはいま－**（2021.3.20/福島放送/26分）【215940】 原発事故に多くを奪われた大熊町の男性2人を中心に、フクシマの10年をありのままに伝える。◆原発事故により大量の放射性物質が拡散し、県の内外で放射線量が上がった。線量を下げるために行われた「除染」で出た土などの廃棄物を一時的に保管するのが、大熊町と双葉町に建設される「中間貯蔵施設」だ。生まれ育った土地を守りたい一方で、施設の建設に協力しなければ復興が遅れてしまうという苦しみを抱える建設候補地の地権者たち。法律には、中間貯蔵施設での除染廃棄物の保管は最長30年で、その後は県外に搬出されると記されているが、事故から10年が過ぎようとしてもその議論すら始まっていない。
15:20～16:10	**ＳＢＣスペシャル　まぼろしのひかり　原発と故郷の山**（2021.3.10/信越放送/50分）【215965】 原発事故で今も帰還困難区域が解除されない町や村で生きる人たちを中心に、国や自治体による公の記録からこぼれ落ちる住民目線の記録、終わらない原発事故を生きる民の声を伝える。◆長野市在住の増田さんは、かつて福島第一原発の副所長を務め増設を進めた。増田さんの証言を手がかりに双葉郡の関係者を訪ね、原発推進の知られざる実態に迫る。戦後、長野県から福島県葛尾村に入植した岩間さんは、原発事故で避難し仮設暮らしを強いられてきた。浪江町の今野さんは、複雑な思いを抱きながら住民の声を集めて記録誌を作っていた。「百年は帰れない」と言われた故郷を後世に伝えたいと願っている。

時刻	3月12日（日曜日）の上映番組
10:30～11:20	**ＢＳ１スペシャル　ノーベル文学賞作家　アレクシエービッチの旅路　チェルノブイリからフクシマへ　後編　フクシマ　未来の物語**（2017.2.19/NHK-BS1/50分）【214702】 2015年ノーベル文学賞を受賞したベラルーシの作家スベトラーナ･アレクシエービッチ。「核と人間」、「国家と個人」の問題を考え続けてきた彼女は、16年11月に福島の原発事故の被災地を訪ね、人々の声に耳を傾けた。NHKはその旅に独占密着取材。彼女が見た「フクシマ」と、その旅に至る思索の過程を、前編と後編に分けて描く。◆後編では、福島の被災者を訪ね、人々の心の叫びに耳を澄ます。2つの原発事故から浮かび上がった思索とは何か。
11:35～12:26	**映像'17　自主避難者はどこへ　迫られる「帰還」か「定住」か**（2017.2.27/毎日放送/51分）【211526】 被災地から日本各地に離散した自主避難者を訪ね、早期の避難終了へのさまざまな思いと制度の問題点について考える。◆東日本大震災と原発事故から6年。2017年3月末で、国が設定した避難指示区域外から避難している自主避難者への住宅無償提供が終了する。これにより彼らは「帰還」か「定住」かの選択を迫られる。国や福島県は、避難指示区域外は放射線量も低く、「避難する状況にない」とするが、本当にそうなのか。国の復興計画を優先し、福島に戻らない人の声を打ち消そうとする方針に、「避難者が消去され、原発事故がなかったことにされてしまう」と、自主避難者の間から懸念の声が上がっている。
12:40	**故郷はどこに　原発事故から７年　こどもたちの今**（2018.8.19/福島中央テレビ/27分）【213401】（～13:07）
13:30	**踊るふるさと　請戸の安波祭**（2019.5.13/テレビユー福島/47分）【214474】（～14:17）
14:30	**テレメンタリー2021　変わる古里　－フクシマはいま－**（2021.3.20/福島放送/26分）【215940】（～14:56）
15:10	**ＳＢＣスペシャル　まぼろしのひかり　原発と故郷の山**（2021.3.10/信越放送/50分）【215965】（～16:00）

◎青文字の番組は、両日上映します。【数字】は「番組ID」です。放送ライブラリーの視聴ブースで番組を検索する際にご利用ください。

※予告なく番組を変更する場合があります。
※上映する番組に登場する方々の役職や引用している資料・知見・データならびに法律・制度・政策等は、すべて放送当時のものです。あらかじめご了承ください。
※番組に登場する方々の人権やプライバシーに関しては十分配慮しておりますが、お気付きの点があればお申し出ください。